



藤枝市立青島北小学校

出前授業レポート

「どの活動も目を輝かせて取り組んでいました。」

歴史好きな子は、「発掘の話をもっと聞きたい」と言っていました。」

藤枝市立青島北小学校の6年生109人が、社会科の縄文・弥生時代の授業で、体験を通して縄文・弥生時代の生活に興味をもつことを目的に、発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験を行いました。

発掘調査と 周辺遺跡の話

埋蔵文化財センターの業務内容と青島北小学校周辺の遺跡について、詳しく話しました。発掘するとどのくらいの量が出るのか、疑問に思う子もいて、興味深く聞いていました。

「土器がどうやって発掘されるのか分かって良かった。」「遠いけど、埋蔵文化財センターに行ってみたくなった。」



土器の分類体験

縄文土器・弥生土器・須恵器の3つの土器片を分類しました。縄文土器は見分けやすかったのですが、弥生土器と須恵器の違いが分からず苦労していました。完形土器をよく観察したり、作り方の説明を聞いたりすることで、違いが分かり分類できるようになりました。

「材料(土)が一緒なのに、こんなに違いがあるのはすごいと思った。」



石器の試し切り体験

金属器のない時代では、物を切ったり、穴を掘ったりするために、石が利用されてきたことを学び、石を加工する技術が高かったことを実物の打製石器や磨製石器を見ることで確認できました。また、黒曜石は産地が限られているため、大変貴重な石であり、昔の人が加工する技術をもっていて、鎌や包丁として利用していたことを知りました。次に、実際に黒曜石の切れ味を試しました。石なのによく切れることに驚いていました。



火起こし体験

曇り空で、火起こしをするにはちょうど良い天候でした。今回は20分のローテーションなので、火起こしをするには短時間で、火が起きるか心配しました。とにかく舞きり法のやり方だけ説明し、すぐに体験に移りました。子どもたちは班で協力し合い、どの班も火を起こすことができ、最高4回も火を起こす班がありました。



佐藤先生の感想

「体験や講話から、歴史の学習を深めることができました。体験20分、移動5分の日程が、子どもたちに合っていたと思います。子どもたちの中に入って支援していただいたり、子どもたちの反応を見ながら話していただいたりして、ありがたかったです。どの活動も目を輝かせて取り組んでいました。歴史の大好きな子が、『発掘の話をもっと聞きたい』と言っていました。ありがとうございました。」



「テレビ番組を見ていると簡単そうに見えたけど、難しかった。」「火種を作るのは、難しくて体力が必要だった。」「腕が痛くて大変だった。」「力仕事だった。」